

南十字星

大阪大学外国語学部
(旧大阪外国語大学)
インドネシア語同窓会

2014年秋 第19号

発行 南十字星会

連絡先 大阪府池田市五月丘 2-5-113-402

電話 Fax 072-753-1693

Email: tani.kazuya.g@gmail.com

Pecah-belah : コワレモノ

高岡 容子 (1987卒)



冒頭から言葉通りの私事ながら、今年の6月に「半世紀」目の誕生日を迎えました。ジャカルタ在住が今年で22年目を数えますので、人生というスパンで考えるとまだかろうじて日本で過ごした期間の方が長いものの、社会人としての経歴は日本よりもジャカルタの方がはるかに上回る計算になります。

当初のきっかけは、総合商社からの駐在でした。当時一般職の立場であったために手続き上駐在扱いにはできなかったようで、正確には4年間の「長期出張」を務めたということになります。帰国の辞令が出た際、自分の付加価値を考慮した結果、退職してジャカルタに残ることを選択し、今に至ります。現在は、許認可申請代行業務を主として取り扱う小さな会社を営んでおります。

ところで、世の中には刺激を好むタイプと好まないタイプの人が存在し、これは食べ物の好みからライフスタイルに至るまで共通していると、物の本で読みました。

恐らく私は前者で、食べ物も比較的味がしっかりした物や珍味の類を好み、服装も個性的であると言われることが多い上言動もいささか大振り

ではありますが、この原稿を書くべく改めて思い返してみると、22年の長きに渡ってインドネシアに滞在してきた間、興味の中心はひたすら自分も含めた人間観察という、極めて地味なものでした。そして、言葉。

人の印象は、外観は勿論のことですが、その人が使う言葉によっても大きく影響されます。極端かも知れませんが、私は話し方、言葉の使い方、文章の組み立て方がその人の属するクラスを代表し、人間的センスを表していると考えています。

一方で、インドネシアの人々は、私が意図するクラスやセンスとはまた別の次元で、押しなべて説明下手の傾向にあります。特に当地に長期的なご滞在経験のある方は同様に感じられた向きも少なくないと拝察致しますが、相手の状況や理解度を慮るという点に価値観を置かない表現が特徴的です。

インドネシアの日系企業で発生している問題の恐らく半分程度は、コミュニケーションの齟齬に直接・間接的に起因していると常々実感していたこともあって、私の会社で扱う業務も自ずとコミュニケーションの質を上げることによって付加価値を出す方向に向かいました。

コミュニケーションの質を上げるためには、私一人がこだわっているだけでは勿論事足りず、スタッフとも、上質なコミュニケーションとは何か、という理解を共有する必要があります。



④のイラストは、ジャカルタのプロ漫画家で友人の前山まち子さんが誕生日の贈り物に添えてくれたものです

とは何か、という理解を共有する必要があります。

「今から〇〇社に行ってきます」

「え、何の用事で？」

「Aさんが実地検証に来ますので」

「Aさんってどなた？」

「あ、税務署の担当官です」

「実地検証って、付加価値税登録申請の？」

「そうです」

「付加価値税登録の実地検証は形式的な筈だけど、立ち合いを頼まれたの？現地スタッフの方が不在とか、経験不足で不安があるとか？」

「頼まれてはいませんが、現地スタッフの方も不安とは仰っていません」

「では何か問題でも？」

「いえ、特に問題は起きていません」

「だったら行く必要はないでしょう？」

「そうですね」

「でも、何かきっかけがあって行こうと思ったんじゃないの？」

「えーっと、Aさんに実地検証のスケジュール確認で昨日電話した時に、“では明日現場で”、と言われたので」

「え？“私の立ち合いは必要ですか”、とか何とか聞かなかったの？〇〇社は遠くて半日は潰れるし、あなたは他にも急ぎの仕事があるでしょう？」

「行かずにすれば、その方が有難いです。今Aさんに聞いた方がいいですか？」

「本当にそれだけで行こうとしているのなら、勿論聞くべきでしょうね。会社が立ち上がったばかりで外国人の取締役以外誰もおられないとか、或は謝礼の要求があったとでも言うのなら、立ち合いが必要かも知れないけれど」

「あ、それなんです。あの…謝礼の要求があったので」

「…どうしてそれを先に言わないの？さっき、問題は起きていないって言わなかった？」

「手続き上は問題がないので…」

「特に断りなく“問題”と言う場合、全ての問題を含みます！」

「すみません」

「正確にはAさんは何と言って謝礼を要求したの？」

「“明日現場”で、と仰ったので、代行者に来て欲しいということ、謝礼を期待していると思いました」

「それだけ??」

「えーっと、はい、そう…ですね」

「今まで付加価値税登録申請の実地検証で謝礼の要求があった例は？」

「多分なかったと思います」

「なのに、“明日現場”、の一言だけで謝礼の要求と

すぐに思い込んだの？」

「えーっと、あの、そうでもないんですけど…」

「口調が思わせぶりだったとか、そういうこと？」

「そう…思った気がしたんですけど、わからなくなってきました」

「あなたが立ち合いを元々予定していると、そのAさんが思い込んでいただけという可能性は？」

「ああ…それは考えもしませんでした、その可能性もあると思います」

「じゃあ電話すれば見当がつくのね？病気とか急用とか適当な理由をつけて、立ち合いには行けなくなりそうだと言ってみなさい」

(電話の後)

「Aさんに行けなくなったと言いましたが、気を悪くした様子はありませんでした」

「理由はどう伝えたの？」

「体調が悪いので、今日の実地検証には立ち会えそうにないと伝えたら、どうぞお大事に、と穏やかに言われました」

「感じのいい人じゃないの。ということは、謝礼の要求っていう

話は？」

「謝礼の要求はまずあり得ません」

「さっきは確信していた様だったけど？」

「確信ではなくて、ただの想像です」

「謝礼の要求があった、と言い切ったわよ」

「そういう可能性を想像した、という意味です」

「あの表現では、誰が聞いても想像や推察とは取りません！」

「すみません」

「じゃあ、結局行かなくていいのね？」

「行く必要はありません」

「今度から、出かける時は目的と理由を先に言って頂戴。説明も根拠をはっきりさせて、事実と推察も区別して。推察を断言口調で言うと受け手を誤解させるから、これは止めてね。それから、固有名詞を使うのは説明の受け手がよほど良く知っている人以外は避けて、人物説明の役職や所属は単位が大きい方からにして。例えば私があなたのことを日本の友人に説明する時は、“インドネシアの私の事務所の現地スタッフで、Kという名前の20台後半の女性”、という表現をするとみんな理解するけれど、“Kがね”、と言っても誰もわかりません。誰それ？”って聞かれるわよね？でそれに答えて“IPSのスタッフ”、って言っても、今度は“IPSって何？”ということになってものすごく会話の効率が悪いでしょう？」

「すみません、改善に努めます」



以上は実例に基づくフィクションですが、概ねこの様な指導を日常的に続けた結果、とあるスタッフのコミュニケーション能力が飛躍的に向上した一方、とあるスタッフの話し方がこんな風になりました；



カシ地方商業局の C さん、あの、この人、いえ、この方は文書課の課長で…」

「あ〜〜、もう、わかりました。同じ“決定”を下します」

因みに、この2人のスタッフは偶然同じ高校の同じ学年出身で、社会的な階層もあまり変わりません。百人百様と言うが如く、一見したスペックが似通っていても、個人によって資質が異なることは重々承知しているのですが、相手の反応のズレによってこちらにもストレスが生じますので、「決定を下す」方のスタッフに対する口調は我知らずガミガミ調になって行きました。いわゆる負のスパイラルですね。

「昼食について申し上げます」

「はい？」

「我々は、本日 Bakmi Gajah Mada のデリバリーを注文することに決定(memutuskan)致しましたが、あなたはそれに倣いたいと考えますか、或は異なる決定を下されますか？」

「デリバリーに“決定”したということは誰も買い出しには行けないの？」

「説明不足で申し訳ありません！S（オフィスボーイ）も、T（運転手）も出かけて… あ、すみません！！ S は△△社の取締役社長の甲様に本日投資調整庁で取得された投資基本許可の原本をお持ちしており、T は、ブ



彼女にランチの選択を聞かれる毎に、もしかしてこの人をちょっと壊してしまったか？という居心地の悪さに見舞われる一方、不毛な苛立ちを覚える自分に、私も微妙に壊されたか？とも思うのです。

人は皆、異文化に長く接すると、よりコワレモノになり易いではありませんまいか。次の半世紀は、コワレモノを壊さず自分も壊されず、憂いなきカラフルな日々を過ごしたいと思う次第です。

写真は、会社 PT. Interprofesi Servisindo (IPS) の前から見た Kemang の風景④と会社が入っている建物の入り口。前頁はオフィス内部

アングル



世界無形文化遺産 Tari Saman



インドネシア・アチェの伝統舞踊「タリ・サマン」。ユネスコの世界無形文化遺産にも登録されています。2014年6月15日に阪大豊中キャンパスでインドネシア留学生協会の大阪奈良支部が“伝統芸術公演”を開催、冒頭に披露されました。写真はその1コマです。

楽器を一切使いません。横に座って並んだダンサーたちが、リズムに合わせて手で自分の胸、膝や床を叩き、体を前後左右に揺らします。「座り踊り」とも言われ、隣の人と肩を組んだり、ウェービングしたり。13世紀ごろ、ヨガ族の宗教儀式が始まりだったそうです。



キャンパス便り

言語文化研究科 准教授 菅原由美
(外国語学部インドネシア語専攻担当教員)

平成 26 年度新入生入学

4月2日に入学式が執り行われ、13人の新入生が入ってきました(インドネシア語専攻12名、日本語専攻1名)。今年は男性が3名、女性が10名です。韓国出身の学生や、インドネシアやマレーシアで暮らした経験のある学生たちもいます。

また、中国出身で文学研究科(東洋史)所属の大学院生が1名、1年生と一緒にインドネシア語の授業を受けています。今年は、なんだか国際色豊かです。

それから、今年は4月から日本語・日本文化研究科



博士後期課程に所属するピカ(Pika Yestia Ginanjar)さんにティーチング・アシスタント(TA=写真前列右端)として1年生の授業を手伝ってもらっています。

共同研究室活動 インドネシア料理会

恒例になってきましたが、今年は6月15日に、2年生がインドネシア料理を作りました。今回のメニューは、トンセン・カンビン(山羊肉カレー)とピサン・ゴレンでした。たまには山羊肉を使った料理に挑戦してみようということになり、トンセンになりました。サフィトリ先生に厳しく指導されたせいか、あっという間に完成して、例年ほどは時間がかからなかったようです。1年生が4限終了後に箕面キャンパスに駆けつけたときには調理は終了していました。インドネシア人留学生数人も一緒になって、おいしくいただきました。

インドネシア人留学生との交流会

阪大には、現在約100名のインドネシア人留学生がいます。PPI(Persatuan Pelajar Indonesia インドネシア留学生協会)大阪一奈良支部(PPI-ON)のメンバーのほとんどは阪大の学生です。箕面にもインドネシア人の学部生が10名ほど来ています。そこで、昨年からは、PPI-ONとインドネシア語専攻の学生との交流会が月に1度開かれています。



夏祭り

7月5日土曜日、例年通り箕面キャンパスで夏祭りが開催されました。今年は、2年生がピサン・ゴレンを作りました。昨年のジョグジャ合宿で皆で作ったクバヤを着て、調理・販売をしていました。クバヤはパーティー着ですから、着ている方はきっと暑かっただろうと思いますが、鮮やかな衣装が目立っていました。暑い中、ご苦労様でした。



今年度はまず5月8日(木)に豊中国際交流会館で、新1年生と一緒に、日本とインドネシアの料理を持ち寄って、歓迎会を開きました。それから、断食中の7月20日(日)に、場所は同じく豊中国際交流会館でブカ・プアサの会に参加させていただきました。礼拝の様子を見学し、インドネシア料理をいただきました。学生だけでなく、大阪奈良周辺のインドネシア人家族が大勢参加したため、交流会館の部屋は満杯でした。料理もすぐなくなりました(写真④)。

6月15日に豊中キャンパス大学会館でPPI-ONが行った「インドネシア伝統芸術公演」も少しお手伝いしました。

《教員の活動・研究から》

「待ったなし」の 大学のグローバル化

国際公共政策研究科 教授 松野 明久

本質的な進化が必要

グローバル化時代を背景として、大学改革はもはや待ったなしといった感じで進んでいる。問題は日本の大学全体の存立に関わっている。グローバル化が進めば受験生は国際的によりランキングの高い大学を目指して流動化する。その時、欧米の大学に比べてランキングが低い日本の大学は取り残される。日本の学生は海外の有名大学に流出し、留学生は日本の大学を選ばなくなる。そして日本そのものが衰退していく、というわけだ。

私は大学ランキング競争のために研究者・教員になったつもりはないが、さりとて日本の大学が落ちぶれて行くのは悲しい。将来の日本の若者たちがちゃんとした高等教育を受けられることは大学に勤める者の責任だとも思う。研究業績、教育の質、開放性（留学生や外国人・女性研究者採用比率）などランキングに関わる項目はどれも重要だし、外から言われなくてもやっていくべきものだ。重要なことは本質的に高い水準を目指す努力であって、その場しのぎのやりくりではない。そういう意味では、今の大学政策はプロジェクトに次ぐプロジェクトで多くが自転車操業であり、そのために発生する膨大な調整（会議・出張等）と事務作業のために、教員は研究と教育に時間がさけなくなっている。これは本末転倒で、実際日本の大学のランキングは低下傾向にある。



トルコで行われたアジア政治学・国際学大会の際、立ち寄ったイスタンブールのブルー・モスク。トルコ政治も世俗的政治とイスラム教との関係で揺れている＝2013年10月

京都でのゼミ合宿。アチェの学生（前列右2人）とカンボジアの学生（前列右から3人目）も一緒だ
＝2013年11月



インドネシアを含むASEANを相手に

先日、京都大学で大学の国際化に関するシンポジウムがあった。そこでインドネシア大学国際交流課長のジュナイディ氏は、ASEAN内の大学が学期を合わせた、単位相互認定のための統一方式を採用したり、英語によるコースを開設するなど、統合に向けた動きを加速させていると報告した。ヨーロッパでは域内の学生移動を促進するエラスムス・プログラムがあり、それを欧州外の学生に適用したエラスムス・ムンドゥス（Erasmus Mundus）プログラムへと発展させた。大阪大学ではやっとなダブルディグリー・プログラム（2つの大学院で学び2つの学位をとる課程）が始まり、国際公共政策研究科がグローニンゲン大学と行う「近現代史・国際関係論」ダブルディグリー・プログラムがその第1号となった。学生は阪大で1年、グローニンゲン大学で1年学び（相手校の学生も同じ）、修士論文が両方で審査されて学位を授与されるというものだ。次にダブルディグリー・プログラムの相手として考えているのはフィリピンの大学だが、将来はインドネシアの大学とも連携していくことになるだろう。

私は法学部国際公共政策学科でゼミをもっているが、最近アチェのシアークアラ大学、カンボジアのパナサストラ大学からの交換学生を受け入れている。そのため2学期は英語になり、日本の学生も英語で発表・討論しなければならない。コンパやゼミ合宿などを通じて親しくなるとインドネシアに連れて行って欲しいという学生も出てくる。以前は毎年学生をインドネシアや東ティモールに連れて行っていたのでリクエストに応じたいのはやまやまだが、今は仕事が多すぎてどうにもならない。その内仕事を整理し、定年前には「研究と教育」に没頭したいと夢を描いている。

寄稿

Apa & siapa

まだ続く海外の生活

佐藤 行洋 (1989 卒)

大阪外大インドネシア語を卒業して早くも 25 年。オーストラリアのパスに初めて 1993 年 9 月 3 日に渡ってからでも、すでに 20 年が経ちました。当時勤めていた日本企業の駐在員としてオーストラリア生活が始まったわけですが、そこを退職して、パスのあとにシドニーの大学院に留学し就職。そして、家族の都合でメルボルンに引っ越しました。日本で就職してからは、ずっと経理関係でしたので、大学院でも会計学コースに入りました。卒業前に会計事務所に就職できてしまったので、大学院を 1 年数カ月で辞めて、会計事務所に働きながら会計士資格を取りました。現在はベトナムの駐在です。2012 年 12 月からハノイに移り、いわゆるジャパンデスクを担当しています。ずっと 20 年も日本を離れていましたので、私の日本語すらおかしくなっており、ハノイ赴任当初は、大変気を使いました。

とにかく転々としてきました。実はハノイに来る前に、パプアニューギニアの首都ポートモレスビーの駐在経験もあります。そこで 6 カ月経ったときの話です。

土曜日でした。不幸にも市内にあるホリデーインのジムに行った帰りに、強盗団に襲撃されました。どうしても逃げ切れず、市内ホテルの調理室で、牛も丸々入るような大きな冷蔵倉庫に隠れていました。しかし、ライフル銃をもったグループがそのホテルまで入ってきて「逃げ込んだ奴を出さない」と宿泊客を撃つ」という。ホテルのマネージャー（オーストラリア人ですが）に抑えられ、強盗団の捕らわれの身になりました。お金で解決できるか、申し出してみました。結局、どこかの ATM まで連れていかれ、自分の口座からお金を引き出し、数時間後にやっと無事に解放。車から出るときは後ろから撃たれるかもしれないとすごく不



安でした。

この手の犯罪は多かったのです。数日前にはオーストラリア人女性が襲われ、お金を奪われた後、車でひき殺されるという無残な事件があったばかり。そして前日の金曜日の夜は同僚のニュージーランド人が同じ色の車に襲われて、私の事件の翌日には同僚のオーストラリア人がまた同じ色の車に襲われました。怪我をしなかった私はラッキーでした。

ただ、私は月曜日には日本大使館の職員の方のエスコートで、オーストラリアに戻ってきてしまいました。大使館の方には、あまりにも運よくしのげたので「佐藤さん、もっと詳しく話してください」といわれたほど。ケアンズに降り立ち、空港で入国スタンプを押してもらったときには、さすがにホッとしました。事件のことは忘れられません。

今でも、モレスビーの同僚やローカルスタッフとはフェイスブックを通じて交流しています。時々メールがきて、短い期間だったけれど、楽しかった思い出も一杯あり、大切な友人にも出会うことができたと思っております。

世界で最も危険で住みにくい国の 1 つのパプアニューギニアと世界で最も住みやすい国の 1 つであるオーストラリア。地理的にはそれほど離れていない隣国です。にもかかわらず、ギャップを埋めることは、まだまだ歳月がかかりそうです。安全の度合いがあまりにも大きすぎ、一言では言えませんが、少しでも埋めることができればと思っています。ただ、あのすばらしいパプアの海が消えては欲しくありません。



ハノイには、四季があります。ベトナムに来る前は、あれこれ暑さ対策を考えていましたが、冬は寒く夏はとてつもなく暑く、その間に短い春と秋があります。社会主義国ということが理由かどうかわかりませんが、ほとんど祝日はありません。中国に占領されたこともあり、中国人に対する地元のイメージはあまりよくありません。

中国との領土問題のニュースも、盛んにテレビで放映されています。ハノイにチャイナタウンというところはなく、中華料理を探すのも苦労します。ただ、私思うに、文化的には中国に近い国です。その例として旧正月（ベトナム語では、テト）を祝います。ハノイの人の顔つきも中国系に近いと思っています。ベトナム語もいまでは漢字を使いませんが、漢字に直せば、私でも大体の感触がつかめます。発音は大変難しいので、努力が足りなかったせいか、1年経ったいまでもほとんど通じません。

ベトナムにも、端午の節句があります。日本では5月ですが、こちらでは旧暦の5月つまり、6月に祝います。ハノイでは“殺虫節”と呼ばれるらしくて、もち米を発酵させたお菓子を食べます。甘酸っぱいもち米で、アルコール度はそれほど高くはありませんが、たくさん食べれば、子供は酔っ払ってしまうのではないかと思います。どうしてこの酸っぱいものを食べるかと言うと、酸っぱさがお腹にいる虫（病気）を退治するといわれているからです（また虫も酔っ払うのでしょうか）。だからなのかもしれませんが、結構すっぱいスモモやマンゴーも食べる習慣があるようです。私にはなぜ熟していない果物を好んで食べるのか不思議です。

最後に、ハノイのバイクの多さには、驚かされます。1年経った今でこそ、道を横切るのもさほど苦労はいりませんが、駐在初日にホテルから事務所に行くのに、途中、ハノイでも有名な大通りがあり、そこを横切るには、必死でした。信号と横断歩道はありますが、そんなことはお構いなしにバイクが走ってきますし、歩道にも反対方向からバイクが入ってきます。3カ月ぐらいすると平気で道が横切れるようになり、いまでは、海外から来られた方と一緒に歩くと、危ないからそんなことは止めてくれと言われるようになりました。

バイクの販売も近年横ばいで、すでに飽和状態になったと言う方もいます。そうすると車の保有率も上がるのかと思いますが、現実的に駐車場もなく、細い道ばかり



で、車社会になるのには、まだ時間がかかりそうです。その前に、シンガポールのように、地下鉄が走り、グリーンな国に発展する可能性もあるかも知れません。

ハノイには旧市街と呼ばれる地区があり、ハノイ独特の雰囲気を保っています。それが壊されることなく、ベトナムが今まで以上に発展していくことを願っています。

【写真説明】すべてハノイで撮ったものです。左頁の立ち姿が筆者。市内にはたくさんのバイクが目につきます。山とか川が写っているのは、ニンビンというところ。中国のケイリンと同様、観光のスポットです。ハロン湾は海での風景が楽しめますが、ニンビンは山です。コンクリートの建物はニンビンの教会。東洋と西洋を折衷した建築様式が有名です。

寄稿

Apa & siapa

“Tidak apa-apa”は 魔法の響き

井本 信也 (2007年卒)

2002年入学。2007年、大阪大学との統合を翌年度に控え、大阪外国語大学として最後の卒業生でした。私がインドネシア語を専攻したきっかけは、何かのインドネシア文化に魅かれたからということではありませんでした。

当時、インドネシアの人口はすでに2億人を突破。“ひとりひとりに1台でも携帯電話を持たせると大きなマーケットになるのでは？”という単純な発想から、高校生だった私はインドネシア語を学ぼうと考えました。大学生活は、非常に楽しいものでしたが、サークル活動に少々勤しみすぎてしまい、必ずしも真面目な生徒ではなかったと思います。(諸先生方、ご迷惑をおかけしました！)

そんな私も、2005年にジョグジャカルタにあるガジャマダ大学へ留学。これが、人生の大きな転機だったと思います。平和な日本で何気なく暮らしていた私にとっては、インドネシアの人々がとても生き生きしているように感じたのです。



— “Tidak apa-apa”。

ジョグジャでもこの言葉で何度励まされたことでしょう。言葉の意味を知らない人でも、聞いただけで心が安らぐような、この魔法の響き。卒業した今でも、どんなことが起こっても、この「tidak apa-apa 精神」をもって取り組むよう心がけています。

現在、私は故郷・大分県の放送局で働いています。残念ながらインドネシアとは全くと言っていいほど関わりがなく、強いて言うならば、昨年、ハネムーンで妻とインドネシアへ行った時くらいでしょうか。インドネシア語を使って妻に格好良い所をみせようとした



番組OA前、ディレクター席で

のですが、すっかり錆びついていて私の語学力。言葉が出てこない…！

少し話が逸れてしまいました。入社後、7年間は営業職場を経験。華やかな放送局の世界を思い描いていた世間知らずなワタクシ。実際はそれには程遠く、昼はスポンサー・広告代理店への営業回り、夜は接待の日々…泥臭い世界がそこにはありました。非常にハードな毎日でしたが、人とのつながりの大切さを再認識させられ、社会人としての基礎を一から教えていただき、充実した日々を送ることができたと思います。



留学時、ポロブドゥール寺院で遺跡の上から撮った朝日▲

◀ 留学中の下宿先。奥のカラフルな家にいました

そして、今年の4月からは、テレビ制作部に異動になり番組ディレクターとして勤務が始まりました。営業とは業務内容が全く違い、別の会社に再就職したような気分です。毎日わからないことだらけですが、それがまた新鮮で、新人のつもりで働いています。

大分県の人口はおおよそ120万人。高校生の時に思い描いた“2億人のマーケット”とはいきませんが、この120万人の視聴者の方々に喜んでいただける番組作りを模索する毎日です。

躓いた時は、あの魔法の響きに元気をもらいます。“Tidak apa-apa!”

特別寄稿

Apa & siapa

Menjadi mahasiswa muslim di Jepang

Haryo Mirsandi

(大学院基礎工学研究科に在籍)

Mengingat kembali masa-masa sebelum datang ke Jepang dahulu, salah satu hal yang membuat saya cemas untuk datang dan belajar di negara ini adalah bagaimana bertahan menjadi seorang pelajar muslim di negara yang selain terkenal dengan kemajuan teknologinya juga terkenal dengan budaya masyarakatnya yang menyukai minuman alkohol serta hal-hal lain yang bertentangan dengan ajaran Islam. Hal lain yang juga saya khawatirkan adalah apakah teman-teman saya nanti disana akan mengerti dan memahami mengenai hal-hal yang saya harus hindari atau wajib lakukan sebagai seorang muslim.

Sebagai seorang muslim, melaksanakan ibadah solat lima kali dalam sehari adalah kewajiban yang saya harus jalankan. Akan tetapi, di Jepang tentunya hampir tidak ada masjid seperti halnya di Indonesia yang bisa dijumpai dimana saja. Oleh karena itu, sangat sulit bagi saya untuk melaksanakan kewajiban solat ketika berada di luar rumah. Bahkan, pada masa-masa awal kuliah dulu, kampus saya belum menyediakan tempat solat secara resmi. Sehingga saya serta teman-teman muslim lainnya terkadang harus melakukan solat secara sembunyi-sembunyi. Beruntung ada perwakilan dari mahasiswa muslim yang mengonsultasikan hal ini ke pihak universitas. Pihak universitas pun menanggapi dengan sangat baik, setelah konsultasi tersebut mereka menyediakan tempat solat di kampus saya. Bahkan, di departemen universitas saya sekarang sudah ada tempat bersuci dan juga bilik khusus untuk tempat solat.

Selain ibadah solat, salah satu hal yang paling dijaga oleh seorang muslim adalah makanannya. Selain diharamkan untuk memakan daging babi, seorang muslim juga tidak diperbolehkan untuk memakan daging yang tidak disembelih secara Islam (bukan daging halal). Walaupun ada sebagian muslim yang menganggap bahwa memakan daging apapun selain daging babi diperbolehkan, saya termasuk yang cenderung untuk menghindari untuk memakan selain daging halal. Di Jepang, negara yang memiliki sedikit

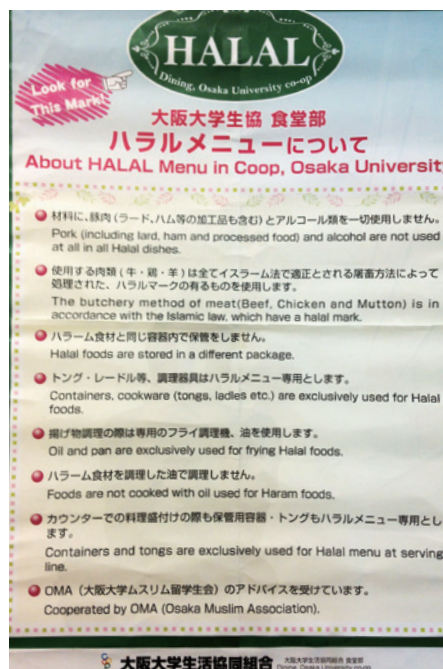
和歌山・串本の潮岬観光タワーで。筆者は前列左端。手にしているのは本州最南端訪問証明書
=2014年5月



pemeluk agama Islam, tentunya akan sulit untuk mendapatkan daging halal, pikir saya dulu. Akan tetapi, ternyata anggapan saya ini salah. Ternyata, seiring dengan semakin meningkatnya pendatang yang beragama Islam ke Jepang, semakin banyak supermarket yang menyediakan daging halal. Bahkan kini di kampus saya sudah menyediakan menu-menu halal yang tentunya sangat memudahkan bagi mahasiswa muslim untuk mendapatkan makanan halal ketika berada di kampus.

Memasuki tahun-tahun akhir kuliah, saya diwajibkan untuk bergabung ke dalam *kenkyushitsu* untuk melakukan penelitian akhir. Karena waktu saya lebih banyak saya habiskan di dalam *kenkyushitsu* ketimbang di rumah, saya menjadi lebih sering berinteraksi dengan orang Jepang, baik mahasiswa maupun para pengajar. Saya sering ditanyai berbagai macam hal mengenai Islam oleh mereka, mulai dari kewajiban seorang muslim hingga acara-acara besar Islam. Tentunya hal ini sangat baik bagi saya, sehingga ketika *kenkyushitsu* saya mengadakan *party*, mereka sudah paham untuk menyediakan makanan yang boleh saya makan. Mereka pun mengizinkan saya untuk libur pada hari-hari besar agama Islam.

Meskipun hanya sedikit masyarakat Jepang yang mengaku memeluk suatu agama, mereka tidak hanya menghargai dan menghormati saya sebagai mahasiswa muslim, mereka bahkan memfasiliasi kegiatan ibadah saya. Sehingga dari pengalaman-pengalaman yang saya peroleh selama kuliah di Jepang, di luar dugaan saya, saya justru mendapatkan banyak kemudahan untuk menjalani kehidupan sebagai mahasiswa muslim. Hal ini menandakan bahwa masyarakat Jepang sangat menjunjung tinggi toleransi antar umat beragama, sesuatu yang patut dicontoh khususnya oleh negara saya dimana masih sering terjadi konflik antar umat beragama.



「南十字星会」会員の皆様へ

会長 宮崎衛夫(65年卒)



最近のインドネシアの発展ぶりを伝える情報が日増しに多くなってきているのは、皆様もお気付きのことと思います。昨年

の国際協力銀行のアンケートで製造業の有望な投資先としてインドネシアが初めて首位に立ち、既に日本からの直接投資による企業数が1300社に達したこと、国内経済の発展のバロメータの1つとなる新車販売台数が今年120万台を超えるであろうことなどのほか、空港の乗降客数でジャカルタが世界で9番目であるとのニュースは少なからず嬉しい驚きでありました。年々貧困層が減少するのに伴い、健全な経済成長を支える中間所得層が増加しているのも喜ばしい限りです。

人口2億5千万のイスラム圏最大の民主主義国家インドネシアは、地政学的にもますます重要な国であり、日本にとっては不可欠なパートナーであることに異を唱える人は少ないでしょう。新大統領に選ばれたジョコ・ウィドド氏の指導のもと一層期待されるインドネシアの発展に伴い、現在多岐にわたる分野で奮闘されている卒業生や、現役の学生諸君の今後の活躍の場は大きく広がっています。

こういった情勢のなか、インドネシア語を共に学ん

だ同志の会である南十字星会は、学生数の減少という逆風が吹いておりますが、インドネシアの成長に負けず持続的に発展していかねばなりません。

そのためには会員の皆様のご支援が不可欠です。この組織の運営は、皆様からの会報発行の際の協賛金と幹事の「ボランティア」体制で行われております。年2回発行している会報「南十字星会」は、住所の判明している会員約1000名の皆様にお送りしています。そのうち協賛金にご協力いただいている方は1割弱の皆様です。ご支援をいただいている方々に厚く御礼を申し上げますと共に、さらに今後とも、多くの皆様の協賛金へのご協力をお願いする次第であります。

もう1つお知らせとお願いですが、本年は2年に1度の南十字星会総会の開催年となります。別途詳細を掲載しております通り、2014年11月9日(日)に大阪大学中之島センターにて開催いたします。同期の皆様や先輩・後輩をお誘いいただき、旧交を温め、大いに語り合い、また昨今のインドネシアの状況に思いを馳せていただく機会になればと思っております。ご多用の折かと思いますが、ふるってご参加くださいますようお願いいたします。

南十字星会 幹事

2014年10月現在

会長	宮崎 衛夫 (65卒)
代表幹事	小原 一浩 (63卒)
同(会報)	岩谷 英志 (64卒)
幹事	渡辺 重視 (64卒)
幹事	藤本 良信 (69卒)
幹事	石丸 誠一 (75卒)
幹事	安田 和彦 (89卒)
幹事	片山 秀樹 (90卒)
幹事	沖中 弘和 (95卒)
幹事	西野めぐみ (05卒)
幹事	平岡理恵子 (05卒)
幹事	高田 芳博 (07卒)
幹事	松本 晋 (08卒)
幹事	西岡 郁恵 (12卒)
顧問	山口 寛 (58卒)
特別幹事	松野 明久 (教員)
特別幹事	原 真由子 (教員)
関東支部長	塩見 澄 (72卒)
Jkt支部長	内原 正司 (64卒)

会報はHPでも読めます!

南十字星会のウェブサイト(HP)のアドレスは <http://bintangpari.jimdo.com> です。会報をこのサイトでも読んでいただけるよう、創刊号からPDF版を掲載しています。ほかにもメニューを増やしていますので、ご活用ください。



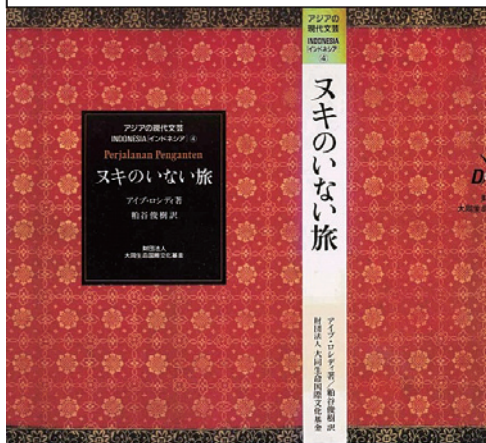
フロントページには、バリ海岸の横長写真に「南十字星会」の文字を書き込んだヘッダーを設けています。その下側に、8つの黒地白抜きがあります。「ホーム」「同窓会について」「会報誌」「ギャラリー」「交流広場」などです。この部分のお好み個所をクリック

していただくと、画面がジャンプして変わります。そのあとはジャンプした各ページの左上の方に、さらに進む「選択肢」が現われています。順次クリックして自由にご覧ください。

一般のウェブサイトと同様、閲覧するのに何の制約もありません。一部の方から、画面に出ている「パスワード」について問い合わせがありました。これは、編集機能に切り替えるためのものです。希望される会員の方で申し出がございましたら、連絡いたします。

電子書籍で再登場 無料です!!

20年前の翻訳本



20年以上前に発刊された粕谷俊樹さん(62年卒)の翻訳本(カット写真は本の表紙)が、今年4月から電子書籍として再登場。無料でパソコンや携帯・タブレットにダウンロードして、読めることになりました。発行元である大同生命国際文化基金の電子化サービスです。閲覧ソフトは同基金のウェブサイト(<http://www.daido-life-fd.or.jp/>)から入手できます。

書籍のタイトルは『スキのいない旅』。原著は Ajip Rosidi さん(元大阪外大教員)の自伝的青春小説。若い夫婦の体験するさまざまな出来事が、西部ジャワを舞台に描かれています。2人は田舎村のジャティワンギから都会ジャカルタに。いったん郷里に戻るが、再度新天地での生活を決断します。母親の願いを受け入れ、愛娘のスキを実家に預けて旅に向かう…。

電子書籍には「しおり」がついていて、次に読むさい、その個所にジャンプできます。また、巻頭には松浦健二さん(元大阪外大教員=故人)の訳者紹介文も掲載されています。年配の会員諸氏には懐かしいのではないのでしょうか。

翻訳本が出版されたのは1993年4月20日。粕谷さんは「長生きはするものですね。若い時の本が電子出版で出してもらえるなんて。ありがたく思っています」と話されていました。

消息

ひとこと (敬称略)

池永義啓(41卒)=札幌市

4月、札幌ではまだ雪が残る庭。南の話題は心温まる感。

大谷昭三(50卒)=小樽市

外専卒業、阪大法学部にはチャレンジ、学力不足で失敗。時移り外大は阪大に統合。今は往時茫茫の境地。

奥田忠志(50卒)=西宮市

胃と肝臓。両方のがんの治療を続けています。今のところ、痛くないので元気です。

原 勝利(50卒)=千葉県佐倉市

89歳。家内は昨年12月介護施設に入れました。目下独身ですが、介護の費用がかさみます。身体は健康であと2年すれば、孫が医大を卒業します。それへの支援も終わりです。

磯浦美恵子(58卒)=吹田市

5月末から6月はじめにかけてパリに旅行。たまたまオダラン(パリのお盆)の祭礼行列に出逢いました。そのときの写真です。



中村英男(58卒)=吹田市

いつもお世話さまです。みなさまによろしく。

山口 寛(58卒)=枚方市

人生の晩節を迎えた今、61年にスタートせる印パや東南アジア、西アフリカと延べ15年に及んだ駐在生活。90年には商社から一転NTTグループへの転職等往時が懐かしく想い起こされる今日この頃です。これからも健康が許す限り、タイを軸足に海外との交流活動を続けたいと思っています。

前田正一(59卒)=神奈川県鎌倉市

横浜でのボランティア活動(外国客船入港時の案内・通訳)など元気にしております。

西田達雄(60卒)=調布市

インドネシアからの日本留学経験者全国組織(PERSADA)により設立された Darma Persada 大学(1986年7月6日創立)へ、日本側支援活動は幅広く展開されています。皆さまのご関心を!!

道廣健吾(61卒)=東京都大田区

喜寿を迎え、「臍胸」という肺の病で昨年末から約3週間の入院初体験。つくづく歳を感じました。

山下 進(61卒)=京都府宇治市

喜寿はまだ遠いと思っていたのに。キャンパス便りで語劇祭、今年は観劇したいと…。

小原一浩(63卒)=大阪狭山市

光陰矢の如し。市会議員に当選して早や3年が経過しました。体力、知力、気力があれば来年の統一地方選にも挑戦する予定。

堀田 実(63卒)=千葉県船橋市

歳には勝てず、年々の体力低下を痛感していますが、半面、釣りと料理には益々力が入っています。

藪中芳夫(63卒)=東京都狛江市

いつも楽しく読ませていただいております。

渡辺重視(64卒)=大阪府豊能郡

インドネシアの歌をみんなで楽しむ会(Lagu-lagu kai)を頑張っています。



山下勝男(66卒)=東京都

会報の編集・発行ご苦労様です。楽しみにしています。

朝倉俊雄(67卒)=横浜市

会報にある留学生のインドネシア語寄稿文、辞書を手に想像力をかきかたて判読に努めています。ぜひ続けてください。

佐々木信子(67卒)=埼玉県比企郡

毎号楽しく拝見しています。今後ともどうかよろしくお祈りします。

里 真吾(02卒)=在インドネシア

夏に一時帰国(予定)。

中島 望(08卒)=奈良県

(ご家族から)当人は結婚して、外国で新しい生活を始めています。

◆おくやみ申し上げます◆

下記の方々の訃報が届きました

佐野泰輔(44卒)=大阪市 13年2月

大森康彦(66卒)=栃木県 13年8月

諏訪本聡(93卒)=さいたま市 14年6月